

「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）改定」進行管理に係る公表フォーム

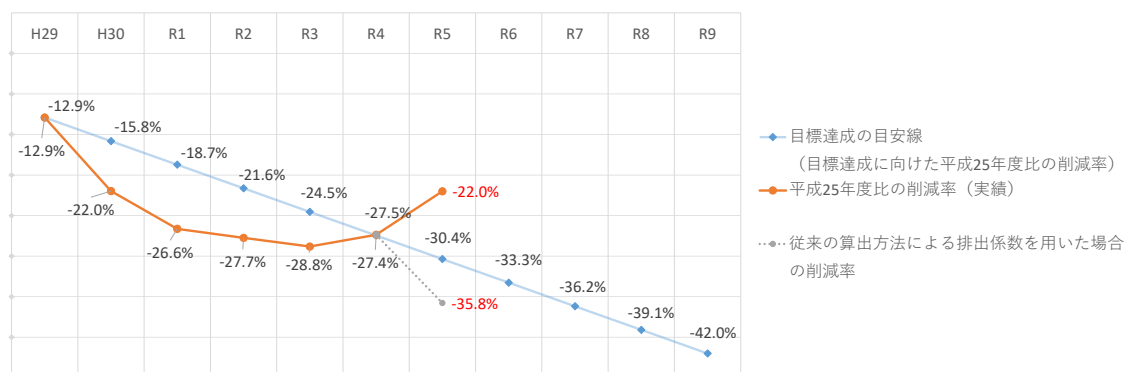
「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）改定」では、令和9年度（2027年度）における温室効果ガス排出量を平成25年度（2013年度）比で42%削減することを目標としています。

令和5年度（2023年度）における温室効果ガス排出量は、令和4年度（2022年度）と比較して増加しており、平成25年度（2013年度）比の削減率が-22.0%となったことから、目標達成の目安線（-30.4%）を上回っています。

これは、電気の排出係数^{※1}の算定方法が変更^{※2}となったことから、本市における電気使用量は減少しているものの、電気使用量に排出係数を乗じ算出する温室効果ガス排出量が増加したためです。

なお、参考に「従来の算出方法による排出係数を用いた場合の削減率」を掲載していますが、この場合の削減率は、-35.8%となっており、目標達成の目安線を下回っています。

■温室効果ガス排出量に係る削減目標の目安線と実績値の推移



	基準年度		実績		目標	
	平成25年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和9年度	令和12年度
温室効果ガスの実排出量	45,296	32,244	32,938	35,369		
カーボン・オフセットによるCO ₂ 認証量			37	41		
温室効果ガス排出量（調整後）	45,296	32,244	32,900	35,328	26,271	22,195
平成25年度比の削減率（実績）		-28.8%	-27.4%	-22.0%	-42.0%	-51.0%
目標達成の目安線	0%	-24.5%	-27.5%	-30.4%	-42.0%	-51.0%

・温室効果ガスの実排出量の数値は、温室効果ガス排出量（CO₂、CH₄、N₂O、HFC）の合計値。
・四捨五入により計算が合わない場合があります。

※1 電力会社が電力を作り出す際に、どれだけのCO₂を排出したかを示す数値で、1kWhの電力を発電する際に排出されるCO₂排出量のこと。

電気の使用に係る温室効果ガス（二酸化炭素）排出量＝電気使用量×排出係数

※2 変更内容は、非化石電源の活用を反映させるものになっており、排出係数が低い電力の選択を促すものとなっています。なお、排出係数は、発電方法等により異なり、使用する電力メニューごとに毎年変動します。

（参考）電力の排出係数の推移

	単位	基準年度	実績		
		平成25年度 (2013年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
排出係数（加重平均）	t-CO ₂ /kWh	0.522	0.345	0.362	0.420

※本市における電力の調達先ごとの電気使用量実績に基づく加重平均により算出

↑ 排出係数の算出方法が変更

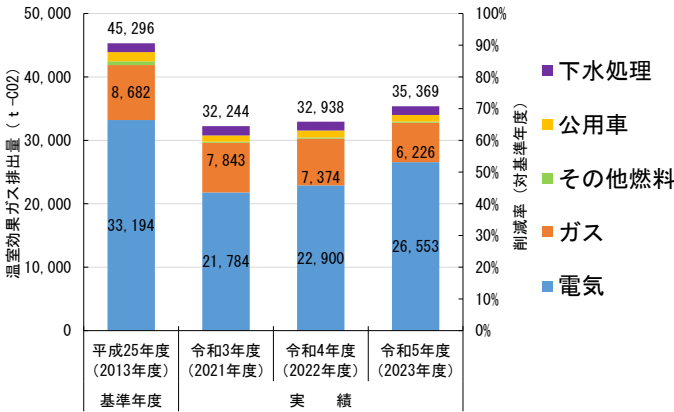
■排出要因ごとの温室効果ガス（CO2、CH4、N2O、HFC）排出量の推移

単位：t-CO₂

排出要因	基準年度	実 績		
	平成25年度 (2013年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
電気	33,194	21,784	22,900	26,553
ガス	8,682	7,843	7,374	6,226
その他燃料	596	157	185	180
公用車	1,433	988	1,084	1,044
下水処理	1,391	1,471	1,395	1,366
合 計	45,296	32,244	32,938	35,369

・数値は、温室効果ガス排出量（CO₂、CH₄、N₂O、HFC）の合計値。

ガス・その他燃料・公用車・下水処理による温室効果ガス排出量は前年度に比べ減少していますが、電気の使用による温室効果ガス排出量が増加していることから、全体として増加しています。

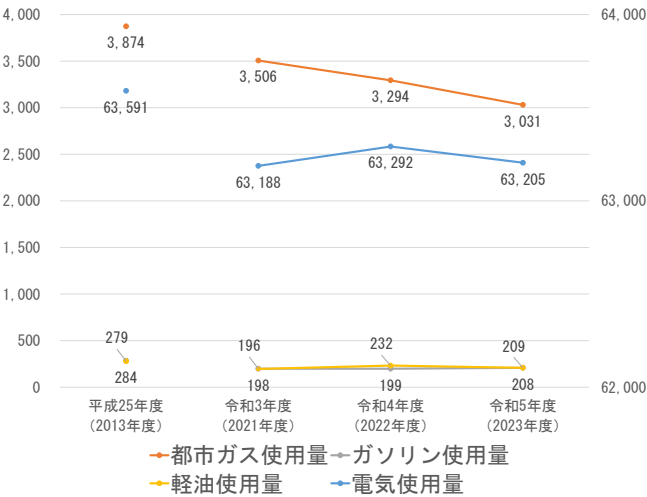


■エネルギー種別ごとの使用量の推移

エネルギー種別	使用量 単位	基準年度	実 績		
		平成25年度 (2013年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
電気使用量	千kWh	63,591	63,188	63,292	63,205
都市ガス使用量	千m ³	3,874	3,506	3,294	3,031
公用車	ガソリン使用量 kL	284	198	199	208
	軽油使用量 kL	279	196	232	209

・非エネルギー起源CO₂及びその他のガス（CH₄、N₂O、HFC）排出量は含まない。

一方で、エネルギー種別ごとの使用量を比較すると、上の表と右のグラフのとおり、電気使用量は減少しています。



■総括

令和 5 年度（2023 年度）は、電気の使用量は減少しましたが、排出係数が高くなったことから、電気の使用による温室効果ガス排出量が増加しました。このため、削減目標を達成することができませんでした。

これらを踏まえ、今後は、環境に配慮した排出係数の低い電力を選択していくことが必要になります。

令和 6 年度（2024 年度）からは、豊中市伊丹市クリーンランドにて、ごみ焼却により発電された排出係数がゼロの電力を複数の公共施設に供給しており、今後対象施設を拡大することで、温室効果ガス排出量は減少していく見込みです。